

第34回地本定期大会を開催!

2023年8月27日「和歌山地方本部 第34回定期大会」を和歌山市JAビルで開催した。

新型コロナウイルス感染が「ゼロ」とはなっていないものの、アクリル板や検温などこれまでにかなりの負担を強いられてきた対応を無くし、ある意味清々しい雰囲気で開催することができた。あらためて、ご参加いただいたご来賓の皆さま並びに全構成員に感謝申し上げます。

本大会はご来賓、代議員、傍聴者等合わせて81名での開催となった。議長には和歌山車掌区分会の田中代委員、田辺保線区分会の大仲代委員を選出し、昨年の大会以降1年間の運動を振り返るとともに、向こう1年間の運動方針を提起し、満場一致で採択した。

来賓には、JR和歌山支社より富澤支社長、連合和歌山より山本会長、和歌山県議会より藤本議員、和歌山市議会より山中議員、JR西労組地方議員団会議より梶原広川町議員にお越しいただき、それぞれの立場より激励・応援の想いを込めたごあいさつをいただいた。また、日頃お世話になっている各方面の友誼団体や各地本・総支部からの激励のメッセージも会場に届けられた。

そしてJR西労組中央本部からは、上村執行委員長、田中政策調査・福祉対策部長、伊藤組織・業務部次長の3名にお越しいただいた。中央本部を代表して、上村執行委員長より「JR西日本を取り巻く状況と盆輸送を含む収入状況に触れられ、①安全について②労働協約・一時金・24春闘について③組織について④政策・政治に関して⑤持続可能な公共交通の実現について」5点についてごあいさつをいただき、最後まで大会にご参加いただいた。

和歌山地本執行部を代表し、宇田執行委員長よりこれまでのコロナ禍における組合員皆様の奮闘に感謝するとともに「①考動計画2027と安全お守り手帳、ABC運動②9労働協約・一時金と24春闘に向けた賃金実態調査アンケートへの要請③コロナ禍におけるコミュニケーション不足への懸念とレク活動再開④日々の業務課題について検証を行い、課題が見つかれば迅速に声を挙げて欲しい⑤持続可能な公共交通のあり方・地方路線の課題について」の5点について触れられ、今大会における課題提起を含めたごあいさつがあった。



大会では代議員7名から「駅や施設、電気に関わる各種施策への課題、女性設備や職場環境の課題、獣害や自然環境に伴う課題、各種手当等への要望など」22項目について発言が出され、新型コロナウイルス感染症の影響は少しずつ解消されてきており、社会的な流動が戻りつつある中、反転攻勢に向けて一致団結して取り組むことがそれぞれの課題解決に真摯に取り組んでいくこと、組合員とその家族の生活と希望を持って働き続けることができる将来を守ることを全員で確認し、2023年度の方針が承認された。

また本年は役員改正の年度であり宇田委員長が退任された。これまで地本執行委員、書記長を歴任され、2013年からは4年間、中央本部の執行委員としてご活躍いただいた。そして2017年からは和歌山地本の執行委員長に選出され、これまでの経験を活かし、リーダーシップを発揮いただいた。これまでのご尽力に感謝いたします。

そして大会の最後は、コロナ禍からの反転攻勢への勢いをつけるため、組合員の総団結で取り組む決意を込めた堂脇新委員長の団結ガンバローで締めくくった。

地本定期大会以降、各支部・分会大会や部会委員会が開催されることとなるが、各級機関大会等でも組合員からの生の声を発言として届けていただくよう要請する。コロナ禍においては書面開催やWEBといった方法を活用し、工夫しながら定期大会の開催をいただいていたが、対面でこそ伝わる熱量や想いがあることも経験した。そうしたことから、今後の大会開催については、感染者数の大幅な拡大等がない場合は対面での開催をいただきたい。

第34回定期大会(2023.08.27)		
役職名	氏名	所属分会
執行委員長	堂脇 義史	和歌山支社分会
副執行委員長	中田 隆博	田辺保線区分会
副執行委員長	脇村 誠規	和歌山電気区分会
書記長	藤々木 正幸	和泉砂川駅連区分会
執行委員	眞鍋 道俊	和歌山車掌区分会
執行委員	林 和弘	和歌山保線区分会
執行委員	川嶋 克則	和歌山電気区分会
執行委員	西 良也	新宮運輸分会
執行委員	新家 華子	和歌山支社分会
執行委員	小田 貴生	和歌山支社分会
執行委員	尾西 良介	和歌山電車区分会
執行委員	中川 陽介	紀伊田辺運輸区分会
会計監査員	石井 晃司	新宮運輸分会
会計監査員	東山 直人	和歌山電気区分会